

○リングの上

語り（人間はみんな孤独。ボクサーはその十倍孤独。誰が言ったんだっけ）

第1R終了後のインターバル。赤コーナーで休むリョウ。

セコンド「リョウ、また悪いクセが出たな！ やる気ないのが見え見えだ！」

セコンドの言葉は聞こえてない。ぼんやり天井を見上げる。

セコンド「格下でも強打のアウトボクサー相手だ。インファighterのお前じゃ…」

セコンドがリョウの口にマウスピースを突っ込む。

セコンド「独りで戦ってるんじゃないぞ！ スポンサーを失望させんな！」

カーン！ 第2R開始のゴング。やる気のない顔で進み出る。

リョウ（オレは独りさ。どこまで行ってもな）

グローブを持ち上げて構える。

リョウ（いや、まるっきり独りってわけでもないか…）

早朝のランニング。先を走る幻影の選手。

リョウ（ランニングすれば俺より先を走ってるあいつ）

ジムでの練習。サンドバッグに浮かぶ幻影の選手。

リョウ（サンドバッグを叩けば俺のパンチをかわして打ってくるあいつ）

闇に浮かび上がる顔の無い幻影の選手が強者のオーラを放つ。

リョウ（名前も顔も知らない。いつ頃からか見えるようになった幽霊。オレがリングに上がる理由があるとしたら…）

ドオ！ 相手の凄まじい右ストレートを側頭部に食らう。

一瞬、意識が飛んで、大きく後方にのけぞる。

リョウ（なんだ今の？）

キュッ シューズでマットを踏んで持ちこたえる。

続いて相手はジャブの連打を畳みかける。かいくぐるリョウ。

リョウ（知ってるぞ。今のパンチ。何度も食らった稲妻みたいな——）

ガアン！ リョウの右アッパーカットが相手の顎を強打。

リョウ（お前なのか！？）

相手選手が距離を取って構え直す。

相手選手「あんたなのか？」

構えるグローブの向こうで相手の目が燃えている。

相手選手「いつもいつも僕の目の前に立つ幻…！ 見つけた…！」

リョウは嬉しくなって思わず笑う。

リョウ「ハハッ！」

リョウは闘志を燃やして猛然と前進！

リョウ（どうやら出会っちゃったようだな。お互い探してた相手によ）

二人のボクサーは全身全霊を上げて打ち掛かってゆく！

リョウ（オレたちは独りじゃない！）